



NPO PTPL “ともいき” 便り No.12

■ 秋分（しゅうぶん）号（2012年9月22日発行）

- 9月22日（土）は秋分、9月22日（土）から10月7日（日）の16日間は秋分の節気です。9月22日は彼岸の中日で、昼と夜の長さがほぼ等しくなり、この日から昼の時間が少しずつ短くなります。

夏の名残りはまだまだありますが、朝晩は大分凌ぎやすくなってきています。「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったものです。

- 9月22日は国民の祝日「秋分の日」、先祖を敬い、亡くなった人を偲ぶという趣旨の日です。国民の祝日は一年間に、1月1日の元日から12月23日の天皇誕生日まで15日ありますが、国民の祝日を今日は休日であるという観念だけで捉え、祝日の趣旨や意義を考えることはあまりありません。しかし、時にはそれを“考える”ということが必要なのではないのでしょうか。

- 暑い暑いと言い暮らしているうちに、虫の声もだんだんと大きくなり、小学生のころ歌った“秋の夜長を鳴き通す、ああおもしろい虫の声”を思い出しました。深まる秋とともになく虫の声もだんだん増えてきます。

- 流れ星は四季を通じて見ることができますが、俳句では秋の季語になっています。きっと澄んだ夜空に、はっきりと見るができるからでしょう。

- 星といえば月、9月30日（日）は旧暦の8月15日、中秋の名月です。この夜の満月を愛でる風習は東アジアの各国に今でも根強く残っています。（中国では「中秋節」、韓国では「秋夕（ちゅそく）」と呼ばれています。）

- 中秋の名月とはいっても、都会では、電信柱、電線、高い建物などに邪魔され、ゆったりとゆっくりと落ち着いて観月の気分を味わうことは難しくなっています。友人の話では東京の浜離宮恩賜庭園で9月28日から10月1日まで閉園を夜9時まで延長し、「中秋の名月を愛でる」という催しがあるという。是非、行ってみたいものです。

大都会の公園で、月1回の満月、中秋の名月、十三夜などの日に観月会を催せたら楽しいことでしょう。そして知人、友人、家族と空を見上げ澄みきった秋空にぼ

っかりと浮かぶ月を見、“ともいき”のいつきを過ごすのです。たまには落ち着いた、ゆったりとした時を過ごすのも良いものです。

- 中秋の名月は中国伝来の風習ですが、10月27日(土)は旧暦9月13日の十三夜、日本独特のもので中秋の名月に対して「後の月(のちのつき)」、合わせて「二夜の月(ふたよのつき)」と呼ばれていました。

旧暦8月15日の中秋の名月を見たら約1ヶ月後の旧暦9月13日の十三夜の月を見ることがになり、片方だけでは「片見月」で不吉だということになっていました。

- 9月25日はハンドインハンドデー。ハンドインハンドの活動は2005年「愛知地球博」の最終日をスタート日として始めたNPO PTPLの活動のひとつです。“子どもたちに自然を取り戻そう”“町に水と緑を”が活動のテーマです。今年で第8回を迎えました。あなたの住んでいる町のどこに何の花、何の木を植えるか計画は終了しましたか。

- 子どもたちが自分たちで考え、計画し、自分の住んでいる町に緑を植え、育て、増やす、そして、“ぼくの木、わたしの木”を決め、子どもたちが木とのコミュニケーションを開始する。子どもたちにとって新しい発見がいっぱいあることでしょう。(大人たちは子どもたちの相談役であり、お手伝いです。)

- 私は去年の夏、自分が食べたアボガドの種子を鉢に植えてみました。冬を越せるのかなと考えてはいましたが……。どうでしょう。今年の4月下旬、芽が出はじめ今では20cm以上に育ちました。来年のハンドインハンドまで待って、もう少し大きく育ったら(幸運にも寒い冬をアボガドの幼木が自分の力で乗り切れたら)どこに植えるか、近所の子どもたちと相談する予定です。とてもとても楽しみ。アボガドの木と説明した時の子どもたち顔を早く見たいものです。

◎この時季の花 「彼岸花」と木犀(モクセイ)

- 彼岸花(曼珠沙華 まんじゅしゃげ)

都心でもあちらこちらで、彼岸花を見つける時季になりました。この花ぐらい呼び名を多く持つ草花は少ないでしょう。(方言まで入れると1000以上あるといわれています。)曼珠沙華は「法華経」に出てくる梵語で、赤い花を意味すると言われています。和名が彼岸花です。

秋の彼岸に前後して、この頃を盛りに真赤に群がり咲きます。そして彼岸を過ぎると消えたようにぱったりと終わらせてしまいます。

面白い呼び名を紹介しましょう。花が咲くときに葉がないため「葉見ず、花見ず」

と呼ばれます。葉は花を知らず、花は葉を知らずということです。

田の畦や川の土手、墓地の周辺などの湿った場所に群がり咲く彼岸花、その燃えるような真赤な色が澄みきった秋の青空と鋭いコントラストを見せて花の盛りが短かいだけに一層鮮やかな印象を人々に与えます。

時々白いヒガンバナを見かけますが、白い花を咲かせるシロバナヒガンバナは曼珠沙華とショウキランとの自然交雑種とされています。アカバナヒガンバナとシロバナヒガンバナが群がり咲いていたら綺麗でしょうね。

● 木犀（モクセイ）

中国原産、モクセイ科の常緑小高木、中国ではキンモクセイを丹桂、ギンモクセイを銀桂といいます。9月末ころになると百日紅（サルスベリ）の花と入れ代わるようにキンモクセイ、ギンモクセイの小花が咲き、爽やかな秋の空気にふさわしい浄らかな香りが漂い始めます。その芳香はいつのものことながら、しみじみと秋を味わわせてくれます。（私の住んでいる町にも、この時季になるとこの香りが漂い始め、私にとって、この芳香は秋を確認する印です。

春の気配にふさわしい沈丁花の甘い香りと、木犀の秋の気配にふさわしい香りの高さ、この二つは春と秋の日本の季節を匂いによって代表するものと言えます。茂った葉のわきに小花が群がるように咲き、芳香を放って花の所在を知らせます。花は湿度が高く気温の下がる夜に、よく匂い、静かに深みゆく秋の思いを人々に告げてくれるのです。早くあの匂いを嗅ぎたい。私にとっての秋の匂いを。

◎ “ともいき暦” より

“ともいき暦” (<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2012/>) の表紙、オレンジ色の点滅している秋分の節気のブロックの○印などをクリックして映像と解説をお楽しみください。

なお、9月30日の○印「十五夜」、10月27日の○印「十三夜」、そして秋の彼岸を表わす紫色の横棒もクリックしてください。

● 一日一回 “ともいき暦” を。

自然の流れに寄り添い、自然のリズムに合った旧暦のある暮らしは、今の時代だからこそ大切です。人の身体も心も豊かにしてくれるもの、それが “ともいき暦” です。

“ともいき暦” は 21 世紀に生きる人々の生活の知恵なのです。

勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局だより

◎ 2012 年度版「ともいき暦」がリニューアルしました。

9 月 15 日付で、2012 年度版「ともいき暦」がリニューアルしました。

アドレスは (<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2012/>)

主なりリニューアルのピントは

- ① トップページが全体に大きく、そして、すっきりし、これまで以上に表記している文字などがクリアになりました。
- ② 各項目にカーソルを当てるとその項目のガイドが表示されます。
- ③ 映像や解説が統一フォルムになり、見やすくなりました。

◎ お知らせ

9 月 29 日（土）に「東京二十四節気ウオーク 第 6 回・立秋」が開催されます。今回のテーマは「水」。コースは品川駅港南口セントラルガーデンから運河やレインボーブリッジを経由してお台場の船の科学館までのおよそ 11Km です。

当日の参加も集合場所にて受け付けております。ぜひ、ご参加をお待ちしております。

◎ “ともいき便り”のご感想、ご意見をお寄せください。

いくつか、事務局に “ともいき便り”に関するご意見、ご感想が届いています。またの機会に改めて、ご紹介させていただきます。

つきましては、ぜひとも、“ともいき便り”のご感想、ご意見をお待ちしております。

◎ “ともいき”便りは、基本的に郵送しておりますが、お知り合いの方にメールなどで配信ご希望の方は、事務局までお知らせください。テキストデータでお送りします。

■ お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒108-0073 東京都港区三田 2-21-11 パークハイム三田 103 号

電話：03-6436-0335 FAX：03-6436-0337 Email：info@plantatree.gr.jp